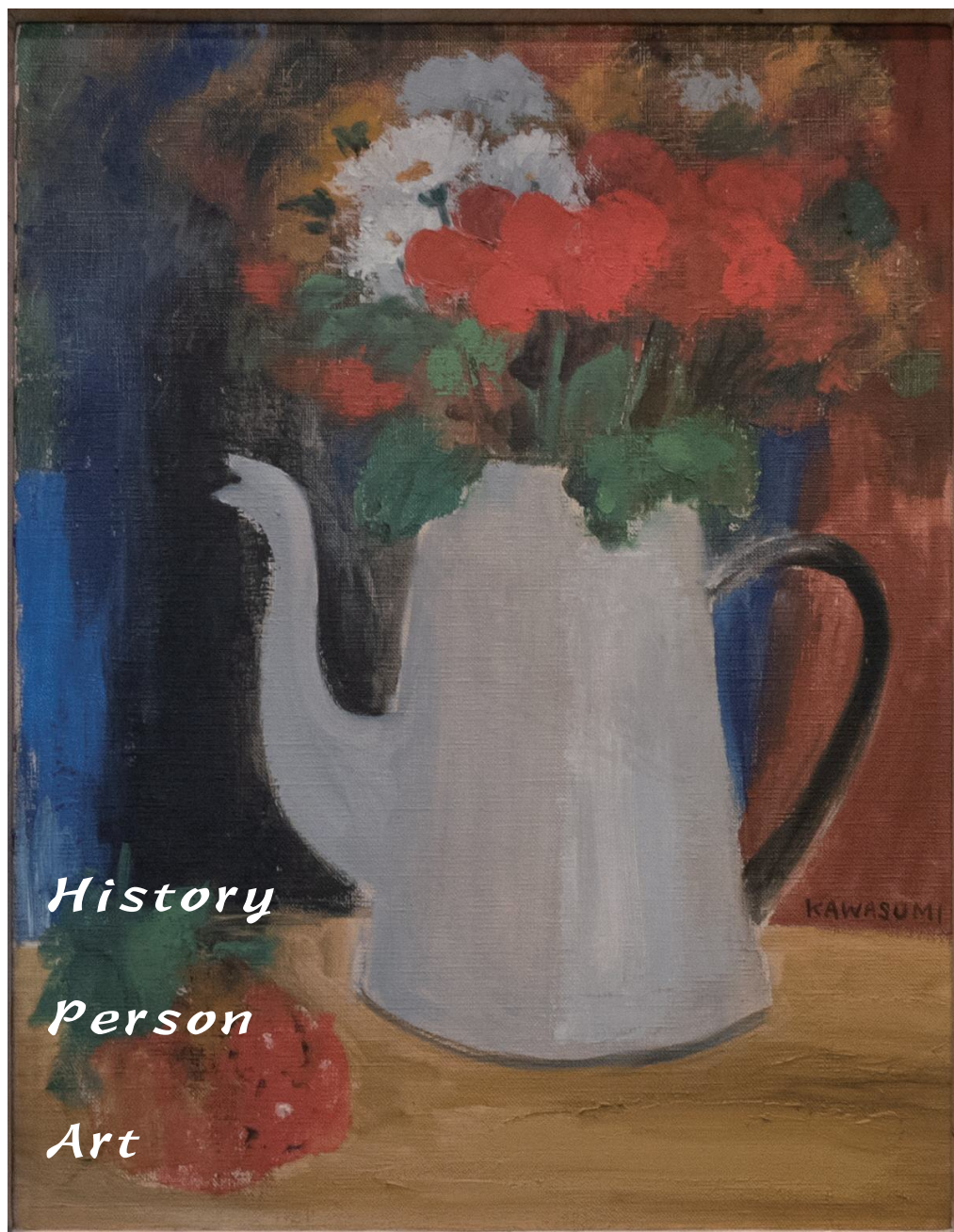


1916 ▶ 2021



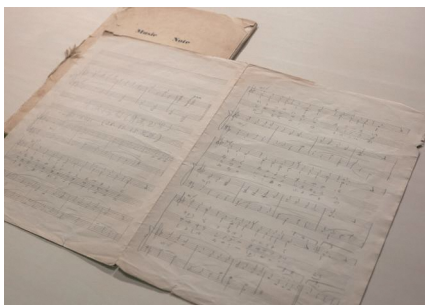
川隅路之助《静物（花）》

前橋市立図書館
コレクション展

2021.6.22 | 火曜 | - 10.12 | 火曜 |

[平日] 9:00 - 19:00 [土日曜・祝日] 10:00 - 17:00

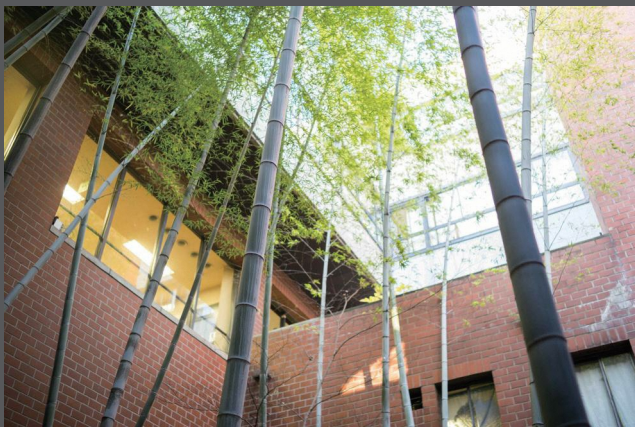
1916 年の開館から 105 年にわたって継承されてきた作品は、地域の歴史や風景、人の営みの変遷を私たちに伝えます。本展では地域の「歴史」「人物」「美術」をテーマに、郷土ゆかりの作品が並びます。コレクションを通じた過去の対話は、地域に眠る物語を再び私たちの前によみがえらせてくれます。



(上段左から)《下村善太郎肖像画》制作年不明、清水刀根《風景》制作年不明、橋本真秀《伊香保八景（錦絵）》江戸末期、《松平葵紋入り前橋城平瓦》江戸時代末期（再築時のもの）
 (下段左から)《井上武士自筆ノート・譜面（宮城小学校校歌）》1955年頃、高田博厚《萩原朔太郎像》1973年、福沢一郎《ケンタウロス》1970年

第1章「地域の歴史」では、前橋城や前橋藩主であった酒井家、松平家にまつわる資料や民俗資料などを中心に展示します。第2章「地域の人物」では、医師で国学者の井上正香、彫刻家・細谷而楽、前橋藩儒学者・保岡嶺南、明治の教育者・堀口藍園、初代群馬県令・楢取素彦、書家・市河米庵、作曲家・

井上武士といった郷土の人物を取り上げます。第3章「地域の美術」では、福沢一郎、清水刀根、川隅路之介、茂木紘一といった地域で活躍した画家の絵画作品のほか、旧刀根橋橋門装飾のレリーフや高田博厚の彫刻《萩原朔太郎像》など、1階中央図書室に常設する作品にも改めて注目します。



105年の歴史をつむぐ市民の図書館（3代目）
 大正時代の前橋は製糸業の活気に満ちた街でした。広瀬川北には製糸工場が広がり、石炭の煙が終日空を覆っていました。ここで生産された生糸は横浜港を経由して海外へ出荷され、「マエバシ・シルク」と呼ばれ、ロンドンなどで高値で取り引きされました。前橋市立図書館は「糸のまち前橋」として、国の花形産業に支えられ近代都市を目指して変貌するの時世の中で始まったのです。

地域の歴史、人物、美術をテーマに41点を展示

前橋市立図書館のコレクションは、上野教育会付属図書館（明治33年設立）のコレクションの継承から始まります。昭和30年代に収集を始めた郷土の詩人・萩原朔太郎関連資料は1万点以上に及び、この資料は前橋文学館の設立として結実します。1923（大正12）年に設立した古前橋研究会の古文書研究に始まり、前橋藩松平大和守家記録（1692年から1882年）に至る190年間の藩政記録。群馬県指定重要文化財の解説と刊行事業など、郷土の歴史研究は全国的にも高い評価を受けています。また、地域ゆかりの作家の美術品の収集保存に力を入れていることにも特色があり、福沢一郎、清水刀根、川隅路之助などの絵画作品、高田博厚の彫刻、井上武士自筆楽譜など幅広いコレクションを形成しています。



郷土の過去と未来をつなぐコレクション

前橋市立図書館

〔平日〕9:00-19:00 〔土日曜・祝日〕10:00-17:00

入場無料

会場 | 2階展示室

月曜休館（祝日の場合は開館し翌日休館）

（一部は1階中央図書室）

群馬県前橋市大手町二丁目12-9

TEL 027-224-4311